



續五之集

下

中村俊定文庫

文庫 18

315

3





續五元集卷之下

元祿十一年

自元祿十一年
至宝永二年



才三

そよみ鞆のあわいそよ葉

秋風の露巻日衣の袖けて 晋子

よみ見のよめ小母の侍を

弟袋捧小かさばる雲母坂 晋子

かかをとわく心傷心の菊

箸て取るさきさき一葉の菊 晋子

糸袖小二人葉をこれ向ひ合

酔く酒屋を陰とワケなく
晋子

風を不流るやうなる星

海へかけこむ舟の心さうい
晋子

よみかゝて糸と取つ法花経

谷の樹ふぢと見流る蟬涼し
晋子

歳らと若く如き我像

きふの月古今の影を消しを
晋子

江戸をながし和良比河は時

魚 先英童 あら 司 山伏 晋子

げ幅の紙濂川一舟も入る

こかりて教ふやうな雀乱
晋子

何小 強さう葉深の裏

星う流る鶺鴒判とやいふと
晋子

只人の舌そへ似合ぬ七り紋

何々ゆある婢子とよ物
晋子

犬と居ぬるぬゆ多しあつ

芦藪より杖て舞あつ日備取
晋子

辻ツミ風古の中より遊る鳥

月

深山木多うくう麻と金乃李 晋子

阿川のやまむさも人乃一圓

止くと書流ハ唐く書乃月 晋子

元禄十二年

どうきん少又や者とはつひん

瘦くと念かお指より帆 晋子

印鉄の仲人多く誰膏乃月 全

山なつきう只ハねのそねい

芋むしー一ワ 輪のゆきまい 晋子

月

亥

松ともヤきうかき色 明盲 晋子

不川てのりきふくる 帆乃舟

嵐のゆきく書討きうゆ歌 晋子

太平記ゆき紙らん过や一乃 全

口きくう紙隣ハかろ 籠漬

反夜乃月れ瘧もかろく支 晋子

下河系茶のきふまろく枝

茶抄ゆきまろは 一トの杖 晋子

菩提寺乃作乃木何くも跡後 全

月

田村のうらまはの河のうらまは

子と川を先をくまんと 晋子

眩るる日の使名乃袖ねん 全

流月や鞠をきくぬれ市

か社勢う出くも志のまぬ市 晋子

長髪を其うをばれ松の根 全

徳鑑の室を院をあらひ也

十二柄を吞ふ已う一年 晋子

世の中は百首詩をくま中 全

麦せ東の職かひてつくらん

買かすもへ隠者やゆき 晋子

花乃時松木川ありまこやへ 全

端之に履うると荒て小社

芥ももかき次 幅の玉 晋子

後をるるをきく帯むる人

夫あうきくして橋をまきり 晋子

欠落猫も猪早を出次

穿人よ僧のきくくハ表門 晋子

志とみみ多あそふはき羽二重

田中井も稚子乃狗打はくへ縄 晋子

つとこのほみ隣子とまゝ子此日

紙灸をまゝへや流るる川原 晋子

もやいもを胡月にかる船

等かといふ物もたき方の材木 晋子

京へ来るとかく志の頂上

妹とまゝ川と流るる安住 晋子

ちる木は紫神系は合少押とまゝ

志

志見布一沖中乃岩 晋子

まゝ流るる西風の皮小を育ツドリ

花を田懸るる月如駒 晋子

うしろに園をとまゝの老

千々付るる二帳、心付屋敷 晋子

志来をまゝ何とまゝ言まゝ海しと

水耳あすし、まゝ惠文後 晋子

まゝとまゝも彼ぬまゝもれ女若気馬

庫裏く程の お後とまゝ 晋子

牛房おつゝまかゆ浪人

大原女の己めく時ふ小むら鳥 晋子

元禄十二年

手ひらりと屋根葺きて月此姪

寝ふ竹さぬ早は多んく 晋子

さこゆる言れ耳てふるも

次進の子おは指とかかり見て 晋子

端らとかく一廉ふよぬ

形おの影見んまふ月夜 晋子

月

空らんく山く遠く障の夢

くりんせうくして四ふお字も 晋子

食釜おらにけと浮船

杉お津と記し例服落合く 晋子

と氣ふ入ぬ書あも華ふまは雛子

回丸く帳くくはきをくこれ 晋子

元禄十三年

履のまは徒然お教とほとん

卯の刻くくや名き辰の市 晋子

五

五

身より元と流るぬ花の生かじ

京ハ久こととれしかへて去 晋子

韓よ依く垣しみこ 文

こほれくろ布刺と流る泪川 晋子

秋凡よきく乳おれり地の方

こ急外を帳おれりれおるこ 晋子

月阿さく承の月いふらおるん

清膚の火若くをむかひに菊 晋子

暗り峠うぬよのきり飛し

花

力みくチカ親身おあ新 大力 晋子

一刺刀く月代り新

あんあやくと多路り中一花盛 晋子

一昏ハ鬼門の燈るははる

重く半又朽し芥の柄 晋子

門穿て宗旨味さく挿子破

七乃やしれ古脚ハ以さ 晋子

あをささく子たおる 園

蜻塚よきとれをがくと極つん 晋子

才三

腹見て攻め能く所終末

室川と百万遍と北多川 晋子

秋山ととと六節君をうけ

も向てあふ盛物の裏 晋子

まご供人の髯口うらる

さひ月も代は流む瀑榎 晋子

脂の香とすく握るゆし

散花ハ流力も行人中せよ 晋子

は赤川の橋よ小義とともとて

月

花

燕

きり靴をる谷乃眼さし 晋子

土壘の態ハ刻とよむ森

摩耶近し親の目そもわたり 晋子

かんたな席も物ふやうよむこと

拘の目もあまるわ白かゝり 晋子

流く追よ若れ石亀

漢本緯よすく三里磨砂 晋子

点漏の節目をれやえ扶持

益万かよふととるゆる保 晋子

ワキ

空の赤や霞の中なる昏の橋

提灯の威ハ古猪あるとら子 晋子

埋火の額の流とねがしとて

朝の籜をよむとて 酒より 晋子

小径はあやうさ乃光明

百里行くまゝハ帆船難言 晋子

銀と雪は又芥の面目

耐子栗をねものこゝぬ人心 晋子

上りて塵壺の氣阿のそん

一村を体じ屋根葎 晋子

根杏と流月さそくある

月 月すめと肩は茶子を怒て傳く 晋子

農人ともと。新ふ一雨

治まら代とくくは足のうら 晋子

鞠ニウ巻縮細乃子さつらふ

女 女美人もも迹と入る月 晋子

け悠々。飛石の神意はうら

娘 娘由一又密夫も事次 晋子

ふく口や重敷のふくく葛の紫

この山いづをう降教とる盤々 晋子

ほこかろる若腰と打凡

行る若盤をうけける身の色 晋子

むくも若づく若行く時

之室ろのまろく入たふ成 晋子

蜷の智恵はぬは道へ川

唐あまの川まろる若壺たあ 晋子

ちんらんまろる若衣たあ物

人あまふ旅の若末をきける 晋子

は系たふかろる若年の母衣

盃もまろる若皆とるまろり 晋子

元禄十二年

氏中子た純ふ國く乃衣 晋子

借はるもの若ろるきより金持て 晋子

及りまろる若あえろる免く

法のまろる若木種る若た下 晋子

羽織出くハ又いれをく

才三

大櫓とこゝろぬらふれ屋と船 晋子

散る花とまのけがらゆるゆら

風中く何きこ子あはすん 晋子

くつくちとてよれちのあし

はさく月と藤と足種ハを念と 晋子

くつとあふらからしむる月

馬子乃千話する身はとの秋 晋子

舟輿初屋よりと蛇の面おす

折花ふありむと花あはとがまへを 晋子

花

春

眉さうきむかひをい

意乃作絵はふまうと 晋子

巾入やすきとみちの浅

まうとあまふ返に世之居のたを益 晋子

本らより所を二方其は神

物くく一口茄子ゆきとて 晋子

足膝うをくさハ鴨の羽音の

細代乃小屋と 起は 晋子

木のくくくは佐佐姫の眉

月

去月

士程よりらむく見よられたの月 晋子

葉枯く佛よある 畑一畝

似るるといふはくし 柿の皮 晋子

歌よそくか 牛捨子あり

宿村不飯名作しるるを 魚 晋子

海にふは堂より西の花が

まよとも及くは 袴撞の俗 晋子

悪心のうきお 威られしき

作 海をよとさうぬやふ片ひき 晋子

月

岸もとも重りれはとも 更衣

ぼきん乃教ハ 凡 大名 晋子

益出しる 姓利うまわれ

木枕の中よとけ 鳴る 萩津月 晋子

酔あくら又も 女房 解しき

卯とらふハ をもし 藤し 居る 晋子

秋の月 葉枯とらきくす

又世の 産後 ありの 葉 畑 晋子

つあふぬ 祓のくぬ せ 涯

息をそとせりしと考ふ何れも人 晋子

持もむきあやしく産むる紙

任吉の家の姫松楊をよき 晋子

あつらひますねらさくらまき

秋香ハ西施をえきする人の樹 晋子

欽明のむしハ金持浦より

伝書の訓を口伝しする 晋子

小キ國又二度の 大切

花見して人のつきよとさかむと 晋子

死

いとやうな花のついでるよも

ワキ

向の上ねまへもあしく旅 晋子

さかしくぬらちと籠はきき

手は産むはやくと産とくやぐ 晋子

私友結ぬ女ハきりぬらんわし

法旅の店を前よりすまは 晋子

老ても針の目斗ハききのもん

花盛猫ハ身持又ありふりき 晋子

元

哀

巻五十一

十二

繩手とつる抱人乃教 晋子

母ははうと記之井ははは

禁中乃能をんは夜とあめ 晋子

多障は壇屋あ小禊の

妻とあさうあ何るなる 晋子

元禄十三年

学やあしと足とああ

うらうお麻せう 楠小代意 晋子

何よりこの事よあてあ切

月

糸の月圓へあは 高新 晋子

唾ハあんろ宮のをあ

于波は具定の甲よあわ裸 晋子

世あしも大キあ枕苦あ

中ははもああああ 着従 晋子

井とああああああ

雨大り棒をむつある花の袖 晋子

海は山越て何とり橋の菓子

有王今ハあ東 奉公 晋子

花

みづらよも別くよとる響

我子成りく内(ま)つぬ依中く高 晋子

雷のやく梵木出ひーき

十万坪口てこまひ(半)年の雲 晋子

襖を忌く是ハ巾着たる月

毀雨者の虫居ハ下ま不揺る 晋子

くう美尔雉子ハ七里遺排

風中まはれくけ色者の背色ケ 晋子

くれの月為初の縮れ十文字

東ハ索綯刈上乃小屋 晋子

懐い上戸の机とくいを割

五月雨より牙と喚をかそ時鳥 晋子

能登之皮の心ハ地分山下風

馬を筆印おまそ秋音 晋子

ま阿らとくく枕ともう南

四より基是ハつこくぬ長と靴色 晋子

沼津絵の腰ハやふはく古山棠

阿の石らんく歯のぬけい底 晋子

之井の獄屋の人をねり自

侍の重宝もあはれ衣掛 晋子

愈々詠々腕又あま疵

すくさや中夜五洲を舟枕 晋子

老僧の手炉とまきけり燕氷

花よ炊つハ瓢箪は麦 晋子

ワキ花

鞠うると早く門へ花出る

袖の月脊中挿する萩風 晋子

月

四宮の勸進能ハ中絶く

意

世ふあき宿も弓と心シオス松首 晋子

クノきしん原ハ梅子小 蝉

はみちるす板の飯も御後川 晋子

照月よ局を人ききせけつ

由月とちとくも咽ハかこころ子 晋子

不悉ハあめあそびも凡中

清水印まハ舟の新うひ 晋子

岩橋のちか袋もつとま

うきよは伯父ふかき一のられ 晋子

アケ白

花より新孔雀の玉の河をふ

夕干流らん 浦清り 孫 晋子

常ととる流ふ止む

綾書あつかり下馬の人立 晋子

啼て雲をすり 石は角

於人の肘よかきる帯袋 晋子

庭をうつく袖をひく時を

庭 かくる封しつりまはるし 晋子

夏も短しつり松尾の三寸

花

小壺あは世なるまゝとて下り履 晋子

深毎のひと残さる母の夢

血のこぼるまゝとて志のまゝ 晋子

毎よう福をとらはせり川

弓夜乃花小押事終座山 晋子

かほがひと古枝もまはる大橋

ワキ

溜人と樋ちのむく 晋子

月

中常懐小きいづく門乃月 晋子

紅きふし竹塚車に車后

刀カかクむム蔭ニをシめス 晋子

福フ又マ咄トすス千チ支シのノ肩カ

女メ房ボ子コ襖ウをキたテらシもモ袴ハカまマ 晋子

時トキきキぬヌ石イシ二ニハハ三サンのノ蓋カ敷キ

籟サイ々々吼ウ々々汐シ星ホシるル 晋子

中ナカ下ゲもモ多タ多タのノ濁ナるル目メ糸イト

花ハナさサうウとトあアらラいイとトいイはハ詩シもモ海ウミむム 晋子

岩イワさサ海ウミ辯ベンもモ去クのノあア

うウてテはハ鞆タヌもモ冨フくク衣イホホ木キ 晋子

ちチんンをヲ妖ヤウらラんンのノ腰ウシ元ゲン

かカとト糸イトをヲ根ネ結ムスむムとトいイふフとトいイふフ 晋子

こコとトいイふフ不フ破ハ礼レのノ校クウ桐トウのノ瘡サをヲまマ

役ヤク者シャふフ福フクをヲ依ヨにニ 晋子

まマのノ信シぬヌハハ鬼キ子コぬヌんン

月ツキのノ徳トクもモ積ツクるル戸ドをヲ月ツキハハ山ヤマ 晋子

むムうウとトいイふフぬヌ吉キチをヲ七シチ

吉キチねネとトいイふフ桶ツケのノ音ネ 晋子

牡丹もみお唇や初紅
心陵カサの棠サニ寂サニとすは山
晋子

月
多ホなハ月ツキ夜ヨとトもモるル月ツキ
如ニくクはハ木キ子コふフとトもモるル月ツキ
晋子

衣
日ヒ判ハをヲ結ムくク中ナカ宿ヤドハハ字ジ治チ
幾イ日ヒ中ナカもモもモるル形カタルのノ結ム白ク
晋子

三ミつツつツ小コ品ヒ布フ袖スエ短ミ襦ユ子コ衣イ
乃ノとト心ココロのノ花ハナをヲ落ツくク庵アト人ヒト衣イ

柄ヘ扱ア押オ申シるル懈ヘのノかけケらラ子コ
晋子

衣
返ヘ後ゴ本ホン郷キョウのノ深フカハハ遠トホ而シ
室シツ鞆タヌハハ去サ年ネン始ハジとトとトやヤりリ子コ
晋子

晴ハ日ヒをヲ浴ユ、、幸サイのノ 幌カウ
晋子

秋アキもモあアらラぬヌ紅ベニ昔ムカシのノ 帟フタ衣イ
晋子

佛ブツ人ヒトをヲ東ヒガシ忌イミするルとト土ツチ竜リウ
晋子

扇アヒをヲ心ココロ 暮ク翁ウのノ 衣イ更マシくク
晋子

烏帽子さうりう第之坊と揮に出

栴尾中みき 梅も腰つけ 晋子

人々 礎を舐てらんがら

熊坂うま刀とそむゆみ物 晋子

浪あらしぬくるるる脊枕

片の刃を扱するふ二扱立 晋子

新原よ孫らりる供の中

園の産さしも浪をさるるき 晋子

二番もよしはるる早小葉とい

口キ

乃忍とよ心ハ 祈叶え 晋子

時の旨と強^{ハガマ}くあを忍え

火うらや紫糸賽あそかあしき 晋子

おろしやちいさく吹て秋の文

麻の背あまき 勢あうく 晋子

紅もあまあけくかきうあかえ

河原津や 踏くくと石の音 晋子

うあきの帳屋甚良は足指へ

牽よさうんくむぬ 編 晋子

綿木指ふ門も正月

箕將ハ柳橋ハ門柳陰 晋子

経机がくけくおく當の教

答ふ洞をさうに 山城 晋子

鞆割くく曉の付

月夜 いさよひの初めを灸白あらん 晋子

かりい多き皇朝朝ふ菊の花

あらしめと見ゆる筈の洗濯 晋子

世ハ刺ハとらふく杉の下あし

樓門の庭とくくおさうめ 晋子

岩屋富貴のうりふとる年の息

根巻の懈ふ虎あは音 晋子

鞍と古くして工後一為

月夜 うかれぬふとぬき世の月の重 晋子

強河あつち拭うけふは草

八十のかり子 八十の客 晋子

所うらふまてせうたれ草

花 硯う考しめへ移る花の條 晋子

朝の月五里を照らす

皇居へよみふるきあつし 晋子

文画うら朽木の青あひ出

一寸の牧の又りふむく 晋子

あつめと知よま月か片月と

志 青女房乃りあつといきく 晋子

志 けくもる庭うらわれとあつては 全

相口と柳ふけし又後

とよふ庭うらもいとぬ遠る 晋子

肝膽ハ法をむ格とあつて

格ふとあつて息を吐山 晋子

那とあつてあつて興シノカモ

花 花のせりよ花位の蝶 晋子

志月 志の月御室ハ白き後藤末 全

竹サテ貫けらあき甲斐文の徳

格著ツキのふとあつて 晋子

むくくハあつては馬籠ウマカと森

柳ヤナギと是とあつては月と 晋子

履と袴をきく鳥帽子也 晋子

二年強くはくしむる也

御患の門へいさといさき後 晋子

周粟とおぼしめしむる也

舟へ出くはくきぬの人 晋子

罪徳とも目記せしむる也

名のくくする世の 血脉 晋子

駮も病もはくしむる也 全

版のくはくしむる也

ワ

袴はくはくしむる也 晋子

はくめの義の肩はくしむる也 全

代士の先子ある也

はくも小股をくくはくしむる也 晋子

そのはく仕のくしむる也

是も信をくくはくしむる也 晋子

はくもはくしむる也

五十年来 梅若の墓 晋子

四民のくしむる也

唐拒了二仕柱杖も掛よも 晋子

切草をむらひあひぬ花層

海をりしをさし猿乃 暉 晋子

うらうらと鏡はどれも南天

そらの花に玉の服とくらん 晋子

あうれを初月抱く紅雲お物

かゝるはと袖の湯ぬ川香 晋子

下垂の流るも此は多洞く

涼ーやと盥の中小傘はーく 晋子

卷

早

入方のくま女鼻を突か

講堂乃大工をいづ種のかう 晋子

猿猴さつは温枕とりしをさや

くも隠居へさうはやさう 晋子

女の控し子よおきの花髪

枉破喰草履と極子控をり 晋子

たゞ物さし柄足する箱のと

の服をあくとややふ花さか 晋子

後片お物く彼袖さく

花

讀五叶

三

借海を舟にわはるる車傍 晋子

一ちりあしは袂笥よこみと

月影の伏猪大根し出ふ 晋子

中と虚骨とは又くぬ其は露

夕風子早徳うきけく物々舟 晋子

傀儡小粒を折まぬ親の言

金う抱り喚く入る秋 晋子

やみうもあねさあからあま

はねふさう極筆を染めしうら 晋子

五

五

海産婦も御湯まりの啜り

佛をよそとととと義國の事 晋子

柱あく口とくあふ月出く

京乃竹^{ミンシ}多き楊りもあれ 晋子

四ッ目^{カサテ}黠ハ舟乃まあ合

と食ども難作のう頭今の中 晋子

天も桐と考る乃ちらん

江戸の園ハ浅まかくまゝ北窓山 晋子

ちりもくくはる水くもくくはる

亥

三糸栲と蝦居くむ川言 晋子

多殿成とる以延世

梅櫛 相とる色くかけ大坪 晋子

借金と棒にかけて俊あり

夏腐の麻の切き 佛名 晋子

和納戸の溢龍ハ風乃宮

月

三日月も行くも舟 輝く 晋子

廿秋の金座ハ麻の結き

亥

かゝる皆那威の女中あり 晋子

アテ旬

新靴の箱と花も友の虫

岩うら足をとれ後き 炭櫛 晋子

たきさくはくはくは侍者多仙

才三

黒ちりね多かりひ乃糸袖平是 晋子

月よしくはまの何さる結申

赤子の跟 毛くむし 家 晋子

楯の折きと虫捲りりり

教経と彼子吹捲る志る多 晋子

更のふふ梁へは交り物息

捕手、破新、臨門、乃、楠 晋子

二反三取、ハ、後田、乃、月

お撲神、輝、よ、成、て、あ、ま、ち、や 晋子

あ、の、う、の、も、花、を、あ、ら、う、さ、川

午、犬、近、く、春、乃、鐘、音 晋子

床、入、あ、ち、と、そ、れ、を、鐘、お、あ、ら

對、馬、一、う、こ、の、人、多、う、の、橋 晋子

箱、乃、け、な、四、を、ま、と、ハ

夕、さ、ら、ハ、親、仁、一、と、よ、く、神、主、苗 晋子

高

月

孔明の刀、け、あ、ら、う、麻、布、角

る、も、と、か、の、の、糸、乃、月 晋子

お、頼、美、乃、新、や、焼、乃、并

玉、乃、礼、秤、を、あ、ら、う、ね、君、あ、ら、う、人 晋子

け、あ、ら、う、の、水、乃、あ、ら、う、い、よ、か

取、中、と、う、ま、な、通、香、乃、像 晋子

八、十、八、と、う、こ、の、あ、ら、う、あ、ら、う

笈、の、花、羽、黒、道、者、乃、判、正、乃 晋子

粉、買、乃、弱、束、乃、中、流、乃、あ、ら、う

花

ワキ

おろさやうしふハ一の秋 晋子

茶碗ちりし女人を何あそ

一對の男ふあふ半 晒 晋子

行灯と園うらなれは友精同

足ハ出さき怒浦流りめし 晋子

イヤレ一様手あれを波のらみ也

小坊をを挾籠うく傀儡師 晋子

粉怒矣ハ孫太扁あり

禪乃口切ハき小花のいち 晋子

花

晨朝の早ふらなる鈴ま鐘

牧のきくいあり人も出の尻 晋子

あふ熱髪く湯を初れ

夕月夜供を減きれく七路花 晋子

死るふらうるあね嫂の櫛

刃へうる家櫛の玉を心ま 晋子

二所縁よ若茶本と去好初けは

家徳利乃は免ハ 橙 晋子

浮世信小軍ハるる不好重

水一斗見制孔乃 以管 晋子

酒瀝して又ハ火庭斗を考む

怒ひ福里子 葱乃出ま刻 晋子

身う番と不上船 出出く 全

西の方まうらあり人関乃自

其と 嗔心 馬き 雷 晋子

紅紫とく人ハ信とく海晏寺 全

歌多子黄金用つくしう

らよの世方の甲子をうー 晋子

性悪を代ふたを猿々ー

前化り起く亡令下 兎 晋子

高は雨多命十九人の中 全

樽蒲乙ハ一不志きるまらに

袂く 洗へ花種と沈 晋子

志のまうあし人乃下あそ 全

ま名物へくはとほし牛乳鞍

橋乃 登査ハ 仲間乃衆 晋子

湯もくは門お獨 杉をん 全

花

意

口
才三

按摩取者人取ともうまは

身 禪乃 影を 正る 川一 晋子

も 好きれぬ 頤城き 棘を 全

此も ちる 影を 撥ウツ

け 雨を 灰を 流す 廿 晋子

強く 抱寄を 流る 申 全

明川ハ 麻と 祇也 申

羽 二を 結ハ 密く 又 晋子

か 進く 如干 翹と 是 好

長屋か てる 不 棄る 短 晋子

東の 船 借ハ 西へ 花と 申

アケ旬 お 新て 何と 不 春 晋子

元禄十三年

海り 乳を 吞と 殺入 笑

店 道の 残る 村ハ 信 晋子

更ら かと す ちく ぬき 菟

月 上 小月、 竹く 月 如 解 晋子

掃く 巾 下 膝の 度 申

嘉子ハ是を^かと^ゆ一日^奉 晋子

鯨の桶の泡ある蓋

多打テハ^くち^こウ^清新^清 晋子

比糸の綱ハ花の鳴子^り

水笠と中勢^傳奏^を雨 晋子

造り是ても^秩子^曲屋

洞窟と^屋凡^の出^まく^屋す^く 晋子

元禄十三年

地虫の^多の^五十^町道

才三

負尔を^ぬ親^を行^司如^扱く 晋子

糸も^中へ^に方^如天^言損

竹買の^伏見^通ハ^八世^口也 晋子

栗賣の^裸し^出る^江湖^寮

多羽^如凡^をか^らぬ^唐拒^キ 晋子

回口よ^屋の^勝と^柱木^屋

下限乃^むと^倍と^鳴と^箱 晋子

鞆乃^けら^りと^足と^足か^く

きり^りと^心研^トの^下押^晋子

能古鞍嵐を問ふ免立

寝塩々ぬげくぬるよととと友 晋子

嘆拂ひく指違ふ 名勢

鈴の声 緋不形流 沖室 晋子

追凡か川ッきくく 旅列

子々々ふ〜〜 小治 李信 晋子

元禄十四年

唐き盡のき西二把の事お存ゆは

口キ 千敷おは日々 杉原おさ〜 晋子

北河ありや名信の母お松苗坊

口キ 針目をとる 高林多輝 晋子

元禄十四年

涼凡小相ふ交はを 臆

口キ 月ぬををを〜 堀貫 晋子

曉と〜 鏡をの〜

口三 灯 又すあきまは乃 瞬 晋子

元禄十四年

野分〜 水百流の〜

川舟の舟に於て相率の舟をたぐる心 晋子

舟の舟の舟をたぐる心

中へかまを道にたぐる舟の舟を 晋子

紙や買へん 橋の渡り

まの舟へ舟をたぐる舟の舟を 晋子

舟の舟の舟をたぐる心

けわきと舟の舟をたぐる舟の舟を 晋子

舟の舟の舟をたぐる心

望望 舟の舟の舟をたぐる舟の舟を 晋子

